

五百木瓢亭 正岡子規の一番弟子であったが、「浪人」となって天皇制ファシズムを陰から支え、歴史から名が消えた。

いおきひょうてい

初の日刊新聞1870 = 伊予国松山の小坂村新場所で、旧藩士五百木作平の長男に生まれる。本名は良三。

明治6年政変 1873 = 3歳 :

明治維新の際、松山藩が徳川方に属したことや武士が廃止になったことで境遇は恵まれなかったが、

琉球処分・・1879 = **9歳** :

幼時から秀才の呼び声高く、小学校のほか、のちの俳人河東碧梧桐の父が主宰する{千舟学舎}に通い、

明治14年政変1881 = 11歳 :

漢学の素養と作文の手法を身につけ、

内閣発足・・1885 = 15歳 : 医師資格をとるべく、松山医学校に入学、

国民之友始・1887 = 17歳 : さらに、大阪の医学校に進み、

初の対等条約1888 = **18歳** : 早くも医術開業試験に合格して医師免許を取得、ドイツ語などさらに学業に精を出そうと、

帝国憲法発布1889 = 19歳 : 上京。松山出身者のため旧藩主がつくった{常盤会}寄宿舍で**正岡子規と交わり**、瓢亭の号で俳句を始め、

帝国議会始・1890 = 20歳 : 子規が熱中していた野球チームにも誘われ、運動は不得意で幹事役となったりするが、徴兵検査に合格、近

衛師団の歩兵となって軍人の道を歩み始め、身体的理由でそれがかなわぬ子規からは畏敬と危惧の念。青山

の近衛兵舎にいたため、休日のたびに根岸の子規庵を訪れるなど、句作に励んで、子規から期待され、

郡司千島探検1893 = 23歳 : 兵役を終えると、子規が自ら編集長として翌年発刊しようとしていた{小日本}の記者に採用されるが、

日清戦争始・1894 = 24歳 : すぐに廃刊となる一方、**日清戦争に臨時召集され渡韓**。子規から依頼され、{日本}に「従軍日記」を連載、

日清戦争終・1895 = 25歳 : ***評判となってジャーナリストの名が上るとともに、句作も冴えわたり、この日記に火を点けられ、病身お**

して従軍記者志願した子規が病状を悪化させることにもなる。この戦争を偉業とみならず政治的口マン主義も

形成し始めて、凱旋帰国。{日本新聞社}に入り、雑報欄を担当、子規の俳句革新に協力する一方、

白馬会・・・1896 = 26歳 : **陸羯南以下錚々たる政論家の影響を受け、近衛篤磨が議長の貴族院の傍聴記事を書き始めて、政治家らの**

知遇を得たことから、一気に政治的活動が深まる。子規が{日本人}で俳人五百木瓢亭特集し高評価。

八幡製鉄始・1897 = **27歳** :

子規句歌革新1898 = 28歳 : **借金で酒宴と放蕩、豪華な結婚式をあげるなど、人が変わってしまい、子規に不快な思いをさせ、**

びア/国産化・1900 = 30歳 : **近衛の熱心と出入りするうち、先輩アジア主義者らと並ぶ扱いを受け、代理で文章書くまでになり、**

田中正造直訴1901 = 31歳 : **陸羯南と相談し、近衛を中心とする国民同盟会機関誌{東洋}を発刊するが、**

教科書疑獄・1902 = 32歳 : **子規が死去。廃刊となり、執筆陣は浪人集団とでもいえる{東洋倶楽部}を結成。国民同盟会も解散となり**

、近衛ブレンらは対露同志会を結成するが、

日比谷公園・1903 = 33歳 : **近衛が肋膜炎に肺炎併発して病臥、最後まで見舞うなか、{日本新聞社}を離れて「浪人」となり、**

日露戦争始・1904 = 34歳 : **近衛が死去。この間に小川平吉と盟友になる。**

日露戦争終・1905 = 35歳 : **陸羯南が病に倒れる。*日露戦争後の講和条約を屈辱とみて反対する国民大会の主催者側の檄文を執筆、日**

比谷焼打事件にまでなる決定的役割を果たし、中心人物として拘引され、「浪人」の位置が確立。

満鉄発足・・1906 = **36歳** :

韓国反日暴動1907 = 37歳 : **「日韓併合建議」を書き、河野広中・小川平吉・頭山満ら先輩と連名で、政府と伊藤博文韓国統監あてに提**

出したのをはじめ、以後、国家主義陣営の黒衣の人として、{日本及日本人}の周辺で活動、

明治天皇没・1912 = 42歳 :

大正政変・・1913 = 43歳 : **外務省政務局長阿部守太郎が暗殺された際、犯人の岡田満と関係があると見られて拘束され、日記やメモ**

帳一切が押収される。以後、日記をつけず、メモも残さないようになる。

21ヶ条要求・1915 = **45歳** : **日本帝国の大陸への進出を主張していたことから、この頃には、大陸浪人川島浪速と親交し始め、政府が**

中国に「対華二十一箇条の要求」を突き付けたのに乗じて、第二次満蒙独立運動をおこし、

朝鮮独立条約・1919 = 49歳 :

朝鮮独立党が樹立した上海臨時政府の外務部長呂運亨が原敬首相の招きで訪日した際の「朝憲紊乱呂運亨事

件」のパンフレットを執筆、

原敬首相暗殺1921 = 51歳 : **近衛篤磨の息子文磨邸にかつてのグループのメンバーが呼ばれた際、原敬の暗殺を予言したと言われる。_**

宮中某重大事件で、山県有朋の横やりを阻止すべく右翼が介入した際、主要な役割をして名が高まる。

護憲三派圧勝1924 = **54歳** :

治安維持法・1925 = 55歳 : **軍事的な対外進出を企図する立憲政友会総裁田中義一と会見、以後、何度か意見を述べる。**

共産党事件・1928 = 58歳 :

張作霖爆殺事件が起きるが、その首謀者が河本大作であることを、田中義一首相より早く知っていた。

世界恐慌・・1929 = 59歳 : ***{政教社}の社長となり、以後、発行する{日本及日本人}の編集に専念、**

海軍軍縮条約1930 = 60歳 : **早速ロンドン軍縮条約反対の論陣を張り、憤死した草刈少佐のため遺稿と追悼集「嗚呼草刈少佐」を発行。**

満州事変・・1931 = 61歳 :

国際連盟脱退1933 = **63歳** : **近衛文磨が貴族院長となり、かつての篤磨周辺グループが再結集。_生まれて初めて街頭演説、**

芥川直木賞始1935 = 65歳 : **「国体明徴」運動の先頭に立ち、新聞に右翼の象徴たる{玄洋社}の頭山満と並んで写真が掲載されるなど、**

その地位を継ぐ存在と看做されるようになるが、

二二六事件・1936 = 66歳 : **二・二六事件には、桜田門外の変や忠臣蔵と同じような時代の狂気を感じる句をつくるなど、**

日中戦争始・1937 = 67歳 : **最後まで俳句仲間の集まりに顔を出し続けるうち病臥し、近衛文磨の見舞いを受けた直後、没した。**

「瓢亭句日記」がある。